

Ⅲ 宮崎県特別支援教育研究連合 研究大会報告

第 2 4 回宮崎県特別支援教育研究連合研究大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「新しい時代の生きる力をはぐくむ みやぎきの特別支援教育
～一人一人の教育的ニーズに応え、持てる力を高める特別支援教育の充実～」
- (2) 期日 令和4年7月29日(金)
- (3) 場所 宮崎県立児湯るびなす支援学校(ホスト)からのZoomによるオンライン研修

2 内容

- (1) 講演「次への意欲につなげるために」 香川大学教授 坂井聡氏
- (2) 障がい種別分科会

分科会及び担当校		内容
視覚	明星視覚支援学校	講演 「白杖歩行の指導の実際」 さざなみの会 歩行訓練士 清水達士氏
聴覚	延岡しろやま支援学校(聴覚部門)	講演 「聴覚障害児のセルフアドボカシー」 岡山県早島クリニック医師 発達支援・放課後デイサービスキッズファースト 福島邦博氏 協議 「子ども達に身に付けさせたい力」
知的	都城きりしま支援学校	研究発表 「特別支援学校高等部職業コース設置に向けた取組」 パネルディスカッション 「進路実現にむけての歩み～学齢期から就職まで、そしてその後に向けて～」
肢体	清武せいりゅう支援学校	講演 「肢体不自由教育における自立活動の指導の改善について」 元文部科学省特別支援教育調査官 下山直人氏
病弱	赤江まつばら支援学校	講演 「筋ジストロフィー児童生徒の支援」 国立病院機構 宮崎東病院 脳神経内科医 鈴木あい氏
情緒	宮崎南小学校	講演 「特別な配慮を要する子どもの指導の在り方 ～特別支援学級と通常の学級の連携～」 国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター 井上秀和氏
難聴・言語	宮崎小学校	講演 「難聴・言語障がい教育における子ども理解や子どもとの関わり、子どもを支える教室運営の在り方」 国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 牧野泰美氏

3 報告

午前中の講演については、申し込み人数が838名、後日配信のオンデマンド視聴が再生約400回と、大変多くの方に聴いていただくことができた。

講演してくださった香川大学教授、坂井聡氏は、実践に基づいた内容を熱く、楽しくテンポ良く話してくださり、まだこの道を歩き始めたばかりの方も、経験を積んでこられたベテランの方も聴きやすいものであったと思う。目の前の児童・生徒が障がいをもっているのではなく、私たち教員が障がいとなつてはいないかという大きな問いかけもあり、自身の実践を改めて振り返る良い機会になった方も多数いたのではないだろうか。

午後については分科会として、障がい種別部会担当が企画、運営を行った。終日参加する方々も多く、盛況であったようだ。

課題としては以下のものがあげられる。

○ 案内文書等の整理

大会の在り方が大きく変わったことで、案内文書でもその旨が伝わるようにしたつもりであったが、配布後、沢山問い合わせがあった。また、午後の分科会とは案内、申し込みを別にしたが、時期がまちまちであったためか、午後の分の問い合わせについても午前中の担当である児湯るびなす支援学校にあった。今年度の実施を受けて、参加者が全体的なイメージを持つことはできたと思うが、次回は2年後であるので、再度詳細な案内、わかりやすい案内は必要だと感じる。また、午後と申し込みを別に行ったが、大会担当が一手に担ったほうがいいのか、検討が必要である。

○ オンライン研修のデメリット

情報機器に関して、主管校の学校職員が主に準備・当日運営を行ったが、知的部会については業者に委託している。予算にも収まるようなので、外部委託できるところは依頼していく方法もあると思われる。当日の機器の不具合等が生じた場合にも、対応していただくことが期待される。

○ アンケートの方法

アンケートについては、QRコードを読み込んで回答する方法であったが、回答が参加人数の半数以下となった。自身の携帯電話やメールアドレスを使用することへの抵抗も多くあったようだ。集約のしやすさを第一に考えてこの方法をとったが、従来のように紙媒体で回答できるものも併せて準備しておく等よりよい方法について検討できると良い。

○ 県立学校／小・中学校との連絡

県立学校間ではミライムを用いての連絡が活発に行われた。しかし、県立学校と、小・中学校とは電話、FAX、代表メール、郵送という手段を用いた。電話連絡では、休憩時間が異なることもあって連絡が取りづらかった。また、代表メールではタイムラグがあることへの懸念、校務支援システムC4thについては県下の小・中学校すべてで活用されているわけではないとのことで、今回はより確実なFAXでのやりとりが主となった。今後、データのやりとり含め、スムーズに安全に行える手段があれば、準備段階での連絡調整含め、担当エリア全体で取り組みやすいものになると思う。

○ 大勢の方々が学べる機会

本大会では、講師の坂井氏による、広く、大きな視野での特別支援教育についてお話いただいた。

現在特別支援教育を担当している方だけでなく、教育に関わる方に聴いていただきたい内容であった。今回は、教材・教具展について実施しなかったが、こちらをあわせて形を変えて行うことで様々な立場の方の目に触れ、学ぶ、知る、やってみようという意欲をもてる機会になるかもしれない。校長会等での周知など、高等学校職員含め、児童・生徒に携わる方が学べる良い機会となると思う。

4 最後に

初めての試みということで、準備も予定通りに進まず、また内容の伝達も十分でなく、反省ばかりの大会となってしまった。ただ、オンラインでのメリットも大きく感じる事ができた。参加者が参加しやすく、また運営側の負担が軽減されるような大会となると良いと思う。御協力いただいた方々に、この場を借りて御礼申し上げます。